

# 教育研究研修センターだより



通巻 NO. 175

平成24年6月15日（金）発行



## 新校地で刻む新たな歴史

岡山市立岡山後楽館高等学校

校長 山本 智

岡山市立の多くの学校園の中で唯一の高等学校である岡山後楽館高等学校の紹介をいたします。

本校は、平成11年に前身である岡山市立岡山商業高等学校、岡山市立岡山工業高等学校の2校の定時制高校を発展的に統合し、定時制課程の単位制総合学科として、さらに岡山後楽館中学校を併設して、公立校では全国初の中高一貫教育校の一つとして創立されました。「いきいき学校園づくり」事業で取り組んでいる岡山市が目指す「岡山型一貫教育」の先駆けとなる学校としてスタートしたことを誇りに思っています。また、全国にも例のないタイプの学校であったため、パイオニアとして手探りで進まねばならない面もありましたが、反面既存のものに捉われずに理想を目指すこともできたものと思います。

中高一貫教育校として6年間の教育を考え、特に高等部では「自主自律の精神に基づき、生徒自らが創る学校生活」「単位制総合学科による多様な個性の伸長」を目指し、開講科目数91（講座数276）の中から自分の進路実現のために自分だけの時間割を作成し、チャイムの鳴らない50分または100分授業やTPOに応じた自由服などにより自己管理を行う中で、一人ひとりの花を咲かせるための取組を行ってきました。

しかし、創立当初から要望していたものがあります。それは校舎でした。前身の2校の伊島校舎、蕃山校舎そして内山下小学校の校舎と中国四国農政局の建物を改築した天神校舎から始まり、校舎間の移動や狭い運動場など不便な中で13年間過ごしてきました。この間、PTAの方々からも熱心な応援を受け、岡山市が財政状況の厳しい中で、未来を担う若者の育成のために新校舎の建設に踏み切ってくださいました。今年度から念願の新校舎に引っ越し、新たな歴史を刻み始めることができました。新校舎は旧・南方小学校の跡地に7階建ての本館と公立校では最大級の体育館からできています。

この地には岡山中央北小学校（南方小学校）が平成17年に岡山中央小学校に統合されて以来、7年間学校がなくなっていたので、久しぶりに学校が戻ってきたと地元の方々の大きな期待が寄せられています。本校が地域から大事にされる学校とならねばという責任をひしひしと感じています。

校地が変わり、今年度の入学生から全日制課程に移行するという、学校としては大変革の年です。これをよい機会ととらえていきたいと思えます。ビジネス系・工業系・健康福祉系など総合学科ならではの幅広い選択科目、常駐するALTによる英語・中国語・ハングル語の学習や「地球の未来」などの学校設定科目による国際理解教育、また不登校経験者や特別支援を要する生徒への細やかな対応、生徒が中心となって運営する文化祭・体育祭などの学校行事、このような岡山後楽館の素晴らしい校風や伝統を引き継ぎ、中高一貫教育のさらなる充実・発展につないでいきたいと思えます。